

積水化学工業株式会社 環境・ライフラインカンパニー

給排水システム事業部 東京都港区虎ノ門2丁目3番17号(虎ノ門2丁目タワー) 〒105-8450

積水化学北海道(株) 給排水システム営業所 〒001-0014 札幌市北区北十四条西4-14-1(ハーモネートビル) ☎011(737)6330

東北支店 給排水システム営業所 〒980-6060 仙台市青葉区中央4-6-1(住友生命仙台中央ビル) ☎022(222)4115

北東北営業所 〒020-0034 盛岡市盛岡駅前通15-20(ニッセイ盛岡駅前ビル) ☎019(624)6000

東京支店 給排水システム営業所 〒105-8450 東京都港区虎ノ門2-3-17(虎ノ門2丁目タワー) ☎03(5521)0641(ルートG・建築G・住宅G) ☎03(5521)0646(電力・インフラG)

横浜営業所 〒220-0004 横浜市西区北幸1-4-1(天理ビル) ☎045(311)6661

静岡営業所 〒422-8067 静岡市駿河区南町18-1(サウスポット静岡) ☎054(289)6051

関東営業所 〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-7-5(ソニックシティビル) ☎048(646)0160

新潟営業所 〒950-0087 新潟市中央区東大通1-2-23(北陸ビル) ☎025(244)9261

長野営業所 〒380-0906 長野市鶴賀七瀬751-6(大成第2ビル) ☎026(226)6510

中部支店 給排水システム営業所 〒461-0005 名古屋市東区東桜1-13-3(NHK名古屋放送センタービル) ☎052(952)9733

近畿支店 給排水システム営業所 〒530-8565 大阪市北区西天満2-4-4(堂島関電ビル) ☎06(6365)4502(ルート担当・水道担当) ☎06(6365)4505(電設担当) ☎06(6365)4503(建築設備担当)

北陸営業所 〒920-0853 金沢市本町2-15-1(ポルテ金沢ビル) ☎076(231)4245

京滋営業所 〒601-8105 京都市南区上鳥羽上調子町2-2(京都研究所内) ☎075(662)3418

神戸営業所 〒651-0096 神戸市中央区雲井通4-2-2(マークラー神戸ビル) ☎078(251)6636

中・四国支店 給排水システム営業所 〒730-0017 広島市中区鉄砲町7-18(東芝フコク生命ビル) ☎082(224)6251

岡山営業所 〒700-0024 岡山市駅元町1-6(岡山フコク生命駅前ビル) ☎086(222)0651

四国営業所 〒761-8075 高松市多肥下町442-1 ☎087(815)3582

九州支店 給排水システム営業所 〒812-0025 福岡市博多区店屋町1-35(博多三井ビルディング2号館) ☎092(271)1314

お客様相談室 【東京】03-5521-0505
【大阪】06-6365-4133

●お問い合わせは上記各営業所へ

エスロンタイムズ on the Web

<http://www.eslontimes.com>

好評
発信中!

*印刷のため色調は実物とは異なる場合があります。
*記載事項は予告なく変更する場合があります。

不許転載

1997年 9月 初 版
2008年 1月 改訂11版

エスロン接着剤
カタログ

積水化学工業株式会社
環境・ライフラインカンパニー

ツールコード

No. 05143

2007. 1. 2TH TX

SEKISUI

2008.1 改訂11版

■エスロンパイプ<硬質ポリ塩化ビニル管>接合用

エスロン®接着剤



CONTENTS

安全上のご注意	1
塩ビ管用接着剤	2
特定 塩ビ管用接着剤	3
ラバーリングタイプ接続用滑剤	4
接着剤・滑剤塗布量	4
下水道用接合剤	5
接着剤・滑剤による接合手順	
接着接合	7
ラバーリング接合	10
参考資料	
製品安全データシート (MSDS)	11
日本水道協会の接着剤適合基準について	13

※容器の表示について
 接着剤は危険物（第四類第一石油類）に該当します。各製品容器には取扱い上の注意、接合時の注意等が表記されておりますので、ご使用前に必ずお読みください。

GHS表記内容	消防法による表記	対象製品
   引火性液体及び蒸気 急性毒性 (低毒性) 発がん性/生殖毒性等	第四類第一石油類 危険等級Ⅱ 火気厳禁	No.70、No.73、No.75 No.80、No.83、ブルー No.100 エスロタイトプライマー
   引火性液体及び蒸気 皮膚/眼刺激性等 発がん性/生殖毒性等		No.65
   引火性液体及び蒸気 急性毒性 (高毒性) 発がん性/生殖毒性等		No.10
  引火性液体及び蒸気 発がん性/生殖毒性等	第二类引火性個体 危険等級Ⅲ 火気厳禁	マスタイト マスシーラント
表記不要	表記不要	ドレンタイト、エスロタイト リブタイト、滑剤類

安全上のご注意

安全かつ適切に使用していただくために、必ずお守りいただくことを説明しています。
 施工に当たっては、各々の管・継手の「施工ハンドブック」等を参照の上、理解して使用してください。表示と意味は以下の通りです。

- 警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が死亡、または重傷を負う危険性が想定される内容が記載されています。
- 注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者が障害を負う危険性が想定される内容及び物的損害の発生が想定される内容が記載されています。

誤った取扱いによる事故を未然に防ぐために下記事項をお読みになり、よく理解した上でご使用ください。

警告

- 保管は法令に従って**
 接着剤は消防法の危険物に該当します。保管にあたっては、法令及び市町村条例を守ってください。また、使用後は火気を避けて冷暗所に保管してください。
- 使用は法令に従って**
 エスロン接着剤は、厚生労働省の有機溶剤中毒予防規則において「第二種溶剤等」に該当します。屋内で、接着剤の1時間当たりの使用量が、以下の許容使用量を超える場合には、「有機溶剤中毒予防規則」が適用され、「有機溶剤取り扱い作業主任」の資格が必要となります。詳細は所轄の労働安全基準監督署にご確認ください。
 接着剤許容使用量W (g/時間) = 0.4 (g/m³・時間) × 部屋の容積 (m³)
 (部屋の容積は、床から高さ4m以下の部分とし、150m³を超える場合は、150m³で計算する。)
 尚、接着剤の1時間あたりの使用量は、実際に使用する接着剤の量に0.6を乗じた数値です。
- 換気・火気に注意**
 有機系溶剤による中毒と火災を防止するため、作業現場では換気に注意し、火気を避けてください。
- 目に入ったら**
 誤って目に入った場合は、こすったりしないで速やかに医師の診断を受けてください。
- 手洗いとうがい**
 使用後は、手洗いとうがいを充分に行ってください。
- 手袋の着用を**
 かぶれ、ただれを防ぐために手袋を着用し、直接皮膚に触れないよう注意してください。万一皮膚に触れた場合は、速やかに石けんと水でよく洗い落としてください。

漏水・接続不良等の事故を防ぐため必ずお守りください。

注意

- 他用途への流用は禁止**
 エスロンパイプ・継手の接着には専用のエスロン接着剤をご使用ください。他の用途に流用しないでください。
- 古いもの、異物混入したものは使わない**
 土砂・水の混入したものや、古くなって固まりかけた接着剤をシンナーなどでうすめて使用しないでください。接着効果が低下し、抜けの原因となります。
- 初期のたまり水は捨ててください**
 エスロン接着剤には有機系溶剤が含まれています。施工に於いて、接着剤の塗布が多いとき、また施工後乾燥が十分でない内に水を流すと水が臭う場合があります。初期のたまり水は捨ててください。
- 混合しないでください**
 異種の接着剤同士、または古い接着剤と新しい接着剤を混合しないでください。接着効果が低下し、抜けの原因となります。
- ゴム輪接合には専用の滑剤を**
 ゴム輪接合にあたっては、所定の専用滑剤を使用してください。接着剤や油、グリスはゴム輪を傷める恐れがありますので、絶対に使用しないでください。
- 二液型接合剤は正しく混合**
 二液型の樹脂系接合剤を使用する場合は接着効果を発揮させるため、取扱い説明書に従って必ず二液を所定の割合で混合してください。

塩ビ管用接着剤

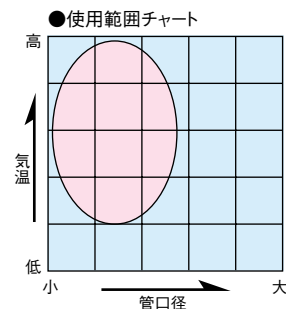


エスロン®接着剤No.73

TS接合の標準接着剤としてご使用ください。
小口径から中口径まで幅広くカバーします。

容量	品番	梱包数	備考
100g	N731HG	100	筆付
500g	N735G	40	筆付
1kg	N731	24	筆付
15kg	N7315	1	受注生産品

低粘度速乾性=A
粘度:500mPa·s



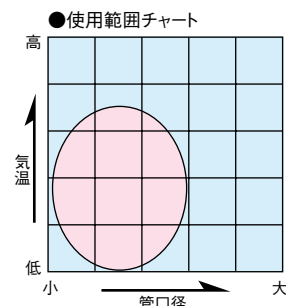
エスロン®接着剤No.75

冬季や小口径管の接続に適した速乾タイプです。
低粘度で、薄く均一に塗布しやすい接着剤です。

⚠ 乾きやすいため、夏季や大口径管の接続は避けください。

容量	品番	梱包数	備考
500g	N755G	40	筆付
1kg	N751	24	筆付
15kg	N7515	1	受注生産品

低粘度速乾性=A
粘度:150mPa·s

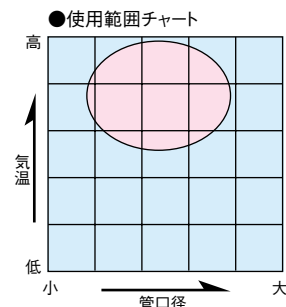


エスロン®接着剤No.70

夏季や中口径管の接続に
適した高粘度タイプです。

容量	品番	梱包数	備考
500g	N705G	40	筆付
1kg	N701	24	筆付
15kg	N7015	1	受注生産品

高粘度速乾性=B
粘度:250mPa·s



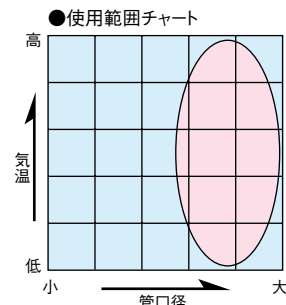
エスロン®接着剤No.65

農業・下水道管の接合にご使用ください。
塗布時間のかかる、中・大口径管に適した
中乾タイプです。

⚠ 水道(飲料用)用途には使用しないでください。

容量	品番	梱包数	備考
1kg	N651	24	-
15kg	N6515	1	受注生産品

低粘度速乾性
粘度:500mPa·s



特定 塩ビ管用接着剤



耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HIパイプ・ゴールド+(プラス))用

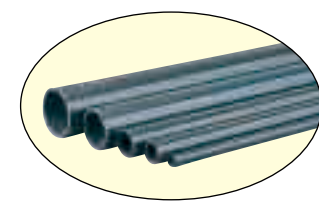
エスロン®接着剤No.80

初期強度と貯蔵安定性を高めた
エスロンHIパイプ・ゴールド+(プラス)用接着剤です。

⚠ HIパイプ・ゴールド+(プラス)には、必ずNo.80、No.83を使用してください。

容量	品番	梱包数	備考
100g	N801HG	100	筆付
500g	N805G-P	40	筆付
1kg	N801-P	24	筆付

低粘度速乾性=A
粘度:500mPa·s



※一般の塩ビ管にもご使用いただけます。



耐衝撃性硬質ポリ塩化ビニル管(HIパイプ・ゴールド+(プラス))用

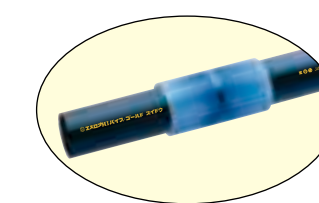
エスロン®接着剤No.83ホワイト

塗布状況の確認がしやすいホワイト色です。

⚠ HI継手透明ブルーには、必ずNo.83を使用してください。

容量	品番	梱包数	備考
500g	N835G	40	筆付

低粘度速乾性=A
粘度:500mPa·s



※一般の塩ビ管にもご使用いただけます。



排水・通気空調設備管、ケーブル保護管用

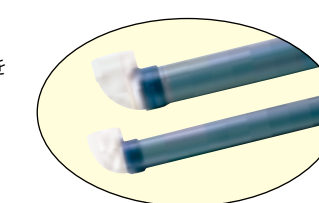
エスロン®配管用接着剤ブルー

色鮮やかなブルーで、塗りむら・塗り忘れを
一目で確認できます。

⚠ 透明DV継手、透明DV-VU継手には、必ずブルーまたはブルーNを使用してください。水道用途には使用しないでください。

容量	品番	梱包数	備考
500g	N735GB	40	筆付
1kg	N731B	24	筆付

低粘度速乾性=A
粘度:500mPa·s



排水・通気空調設備管、ケーブル保護管用

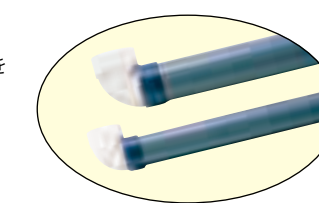
エスロン®配管用接着剤ブルーN(低粘度)

接着剤ブルーの低粘度タイプです。
粘度が低く、薄く均一に塗布しやすい接着剤です。

⚠ 透明DV継手、透明DV-VU継手には、必ずブルーまたはブルーNを使用してください。水道用途には使用しないでください。

容量	品番	梱包数	備考
500g	N755GB	40	筆付
1kg	N751B	21	筆付

低粘度速乾性=A
粘度:150mPa·s



耐熱性硬質ポリ塩化ビニル管《HTパイプ》用

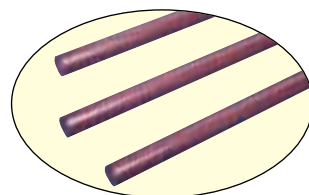
エスロン®耐熱接着剤No. 100

低粘度速乾性
粘度:500mPa·s

高温使用時でも高い接着力を保持するHT用接着剤です。

⚠ HTパイプには、必ずNo.100を使用してください。

容量	品番	梱包数	備考
250g	N1H2G	80	筆付
500g	N1H5G	40	筆付



ラバーリングタイプ接続用滑剤

上下水道・農水・電力通信用

エスロン®滑剤ベルソープ

すべての塩ビ管ゴム輪接合に適応します。滑性もよく、気温の低い冬場でも硬くならずスーッと塗れます。

※RCPなどの大口径には適していません。

容量	品番	梱包数
1kg	BSP1	4
1kg(ハケ付)	BSP1H	4
2kg	BSP2	2

強化プラスチック複合管(RCP)用・塩ビ差込(ES)ソケット用

エスロン®滑剤No. 1

雨天・水中でも使用できる、非水溶性です。持続性に優れ、炎天下でも滑性を損ないません。

⚠ 水道法に定める水質衛生基準により、飲料用配管には使用しないでください。

容量	品番	梱包数
1kg	KZ11	10
2kg	KZ12	6

接着剤・滑剤塗布量

接着剤	■径別1ヶ所当たりの接着剤塗布量(参考)																	1箇所当り		
	呼び径	13	16	20	25	30	40	50	65	75	100	125	150	200	250	300	350		400	450
塗布量(g)	0.7	1.0	1.5	2.0	2.5	3.5	5.0	6.5	10	15	20	30	55	90	125	175	220	275	350	500

滑剤	■径別1ヶ所当たりの滑剤塗布量(参考)														1箇所当り
	呼び径	40	50	75	100	125	150	200	250	300	350	400	450	500	
塗布量(g)	4	5	7	10	15	20	25	35	50	65	90	115	140	190	

塩ビ製支管とコンクリート管・陶製管接合用

エスロン®ドレンタイト

二液型

遠心力鉄筋コンクリート管および陶管用支管の取付けや、マンホール、マス、コンクリートなどの充填防水、内側仕上げ用の特殊接合剤です。

⚠ 一般用と冬季用がありますので、使用期によって使い分けてください。

- ・No.503(一般用) 外気温が約15℃以下の低温では、硬くて取出しが困難ですが、温水による加熱で軟らかさを調節することができます。
- ・No.502(冬用) 外気温が約15℃以上で使用するとベタつきがひどくなって混練がしにくくなり、盛付けや充填の際、接合剤がタレて安定しません。



容量	品番	梱包数	使用温度範囲(℃)	備考	
No.503(一般用)	2kgセット	N503-02	6	15~40	A剤・B剤:各1kg
	10kgセット	N503-10	1	15~40	A剤・B剤:各5kg
No.502(冬用)	2kgセット	N502-02	6	0~15	A剤・B剤:各1kg
	10kgセット	N502-10	1	0~15	A剤・B剤:各5kg

特長

- 1)早く硬化するので埋戻しが楽です。
- 2)強度はモルタルコンポの数倍です。
- 3)湧水中でも使用できます。
- 4)モルタルコンポより作業性に優れています。
- 5)モルタルコンポのように経時クラックが発生しません。
- 6)モルタルコンポのように管内にポロポロ落ちません。
- 7)耐酸・耐アルカリ性に優れています。
- 8)モルタルコンポより強度のバラツキがありません。
- 9)吸水性、透水性が非常に小さく鉄筋に密着して管を保護します。

標準使用量(単位:g)

1)マンホール継手取付け部

呼び径	管種	円形管	卵形管
200		900	1000
250		1000	1200
300		1200	1400
350		1400	1600
400		1500	1800
450		1700	2000
500		1800	2200
600		2200	-

⚠ 積算にはロス分を見込んで表の値の1.3倍としてください。

2)塩ビ管と支管(A90SHR)の場合

取付け管呼び径	100	125	150	200
本管呼び径				
200~300	650	800	950	1280
350~450	690	860	1040	1370
500~800	860	1080	1290	1680
900~1350	1050	1350	1650	2120
1500~2000	1280	1610	1950	2400

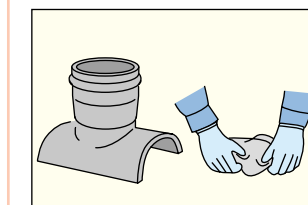
⚠ ドレンタイトだけで接合する量を表示しています。

3)鉄筋コンクリート管と塩ビ支管(S90SHR)の場合

取付け管呼び径	100	125	150	200
本管呼び径				
200~300	800	900	1000	1200
350~450	850	950	1050	1250
500~800	900	1000	1100	1300
900~1350	1000	1100	1200	1400
1500~2000	1100	1200	1300	1500

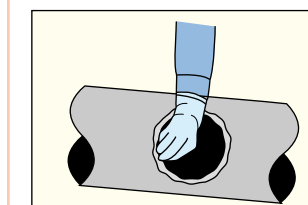
ドレンタイトの使用法

1)混練



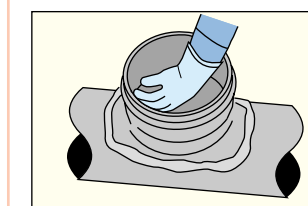
主剤(A剤)と硬化剤(B剤)を色ムラがなくなるまで十分混練する。混練後約15分で硬化がはじまるので1回の使用量毎に手で混練する。

2)ドレンタイトの盛付け



まず、ヒューム管側の穿孔部全周にドレンタイトを圧着盛付ける。

3)接合



支管のサドル部全周にドレンタイトを均一に盛付ける。管と支管の隙間にドレンタイトがはみ出したり、隙間ができないよう手で充填する。

安全上の注意

1. ドレンタイトの加温は暖房された自動車や、事務所において養生すると簡単にできます。ストーブなどの火気で直接加温しないでください。
2. ドレンタイトを混練するときは、必ず付属の手袋を着用してください。素手で行うと肌荒れの原因となることがあります。



塩ビ管用支管接合剤

エスロタイト

二液型

硬質ポリ塩ビ本管と硬質ポリ塩ビ管用支管の接合用に開発された画期的な接合剤です。番線の締めにくい大口径管や既設管への使用に適しています。

1. プライマーは危険物（第四類第一石油類）対象となります。取扱いには十分注意してください。
2. 管表面とサドルのエスロタイトを使用する面に、必ずプライマーを塗布・乾燥させてからエスロタイトを塗布してください。プライマーを使用しない場合、十分な接着強度が得られません。
3. 主剤（A剤）と硬化剤（B剤）は色ムラがなくなるまで十分混練してください。混練が不足すると強度が得られなくなります。
4. リブパイプ用支管には使用しないでください。
5. 混練後3〜7分で硬化しますので素早く作業を行ってください。

標準使用量

取付管呼び径	100~200
エスロタイト使用量(主剤硬化剤混合)	350g/ヶ所
プライマー使用量	20g/ヶ所

容量	品番	梱包数	備考
1セット	ESTABP	1	(A・B各175g×5、プライマー100g)

作業の手持ち時間が少なく、作業性に優れています。
(埋戻し時間:夏季15分、冬季30分)



リブパイプ専用支管接合剤

リブタイト

二液型

プラスチックリブパイプ本管とプラスチックリブパイプ支管の接合用に開発された専用接合剤です。

1. 一般用と夏用がありますので、使用期によって使い分けてください。
2. 主剤と硬化剤は色ムラがなくなるまで十分混練してください。混練が不足すると強度が得られなくなります。

標準使用量

取付管呼び径	本管呼び径	標準使用量
100~200	100~200	500~700g/ヶ所
150, 200	150, 200	700~900g/ヶ所
250, 300	250, 300	900~1200g/ヶ所

容量	品番	梱包数	使用温度範囲(℃)	備考
10kgセット	RIBT10I	2	20以下	主剤・硬化剤各5kg
2kgセット	RIBT2I	4		主剤・硬化剤各1kg
10kgセット	RIBT10N	2	15~35	主剤・硬化剤各5kg
2kgセット	RIBT2N	4		主剤・硬化剤各1kg

※その他、詳細につきましてはリブパイプ施工ハンドブックをご参照ください。



スパイラル推進管用接合剤

エスロン®ハイシールNo.2

下水道用スパイラル推進管の接続に使用します。

容量	品番	梱包数	備考
200g	HS2T	10	チューブ入
400g	HS4CS	1	カートリッジ



カイショマス・下水トラップB形接合用シール剤

エスロン®マスタイト エスロン®マスシーラント

エスロンカイショマスとVU管・増結リングの接続に使用します。シール接合のため、接合部からの不明水の侵入がありません。

- シール剤は硬化と共に収縮しますので、多めに塗布してください。

容量	品番	梱包数	備考
マスタイト 200g	MSTT2G	50	チューブ入
マスシーラント 333ml	MSC333	20	ガンタイプカートリッジ
シールテープ 50mm×15m	MST	30	t=0.55mm

接着剤・滑剤による接合手順

接着接合

TS継手・HI-TS継手の接合方法

配管工具および材料

- 塩ビ用ノコギリまたはパイプカッター
- ヤスリ（鉄工用平型荒目）
- メジャー、マジックインキ
- エスロン接着剤、ウエス
- 工業用アルコール
- 玉掛ワイヤーロープまたは挿入バンド
- エスロン挿入機またはヒッパラー



1 管の切断
切断箇所は正しく寸法を出し、マジックインキ等で管軸に直角に切断線を記入し塩ビ用ノコギリを用いて切断します。



2 管差口の面取り
管差口は、やすりなどを用いて内外面全周にわたり糸面取りをおこないます。特に管を切断した場合は、バリやカエリのないよう管端面もきれいに仕上げることを心がけてください。面が取れていないと、接続時受口部の接着剤を削り取ってしまい、抜けの原因となるので、必ず糸面取りをしてください。



3 挿入長さの記入
継手受口に管差口を軽く挿入して、管が止まる位置（ゼロポイント）が受口長さ（ℓ）の1/3〜2/3の間にあることを確認した後、呼び径40以下は差口に受口長さを記入し、呼び径50以上の場合は、ゼロポイントに受口長さの1/3の長さを加えた位置に挿入線を記入してください。

単位: mm

呼び径	13	16	20	25	30	40	50	65	75	100	125	150
ℓ	26.0	30.0	35.0	40.0	44.0	55.0	63.0	61.0	64.0	84.0	104.0	132.0
1/3ℓ	-	-	-	-	-	-	21	20	21	28	35	44



4 受口・差口の清浄処理
継手受口内部や管差口に付着した砂、土、水分等は乾いたウエスできれいに拭き取ってください。※特に接合部に油などが付着している場合は、工業用アルコールを少量用いて清浄してください。



5 ワイヤロープと挿入機の取付け
呼び径50以下は、作業条件がよければ手で挿入可能です。呼び径65以上は必ずエスロン挿入機を使用してください。



6 接着剤の塗布
管種に合った専用の接着剤を使用して、継手の内面、管の外面の順に適量を均一に塗布してください。
【注意】継手内面は、薄く全面に塗布してください。



7 管の挿入
継手受口と管差口の軸を合わせ、挿入機を用いて標線の位置まで挿入します。
【注意】接着剤塗布後、できるだけ素早く挿入し、はみ出した接着剤は拭き取ってください。
【注意】挿入は途中で停止することなくすみやかに一気に挿入してください。（なじらず挿入してください）
【注意】たたき込みや斜め挿入は漏水などの原因となりますので絶対に行わないでください。



8 保持・養生
下表を目安に保持し、抜け出ないことを確認してください。

気温(季節)	呼び径	
	50以下	65以上
夏場	30秒以上	1分以上
冬場		2分以上



9 溶剤蒸気の除去
【注意】配管完了後は、内面の接着剤の溶剤蒸気除去のため、必ず通風してください。

エスロンHI継手透明ブルーの接合方法（品揃え 呼び径13~50）

HI継手透明ブルーは接着剤の塗布状況、管の挿入状況等が確認できる新開発の継手です。管の切断、管差口の面取りまでは上記と同様の方法で行ってください。

1 ゼロポイントの記入

●接着剤をつけずに管を挿入します。
●管が止まる位置（ゼロポイント）が受口長さの1/3〜2/3の間にあることを確認し、継手外面にマーキングします。

単位: mm

呼び径	13	16	20	25
受口長さ(ℓ)	26.0	30.0	35.0	40.0
ℓ×1/3	-	-	-	-
	30	40	50	
	44.0	55.0	63.0	
	-	-	21	

2 清浄処理

●乾いたウエスで水、土、ほこりをふき取ります。
※特に接合部に油等が付着している場合は、工業用アルコールを少量用いて清浄してください。

3 挿入固定治具の取付け

●管と継手に固定治具を取付けます。
※呼び径50以下は作業条件がよければ手で挿入可能です。

4 接着剤の塗布

●継手内面、管外面の順に均一に塗布する。
（塗り忘れ）
（下側を特に注意）
必ずエスロン接着剤No.83ホワイトをご使用ください。

5 管の挿入

必ず奥まで挿入してください。
※接着剤塗布後の管挿入はできるだけ素早く行ってください。
【たたき込み】
継手の破損、漏水の原因となる。
【斜め挿入】
管が入らない。
【注意】挿入は途中で停止することなくすみやかに一気に挿入してください。（なじらずに挿入してください）

6 保持・養生

保持時間は30秒以上。
●荷重をかけたまま保持します。
【注意】はみだした接着剤はウエスなどでふき取ってください。

DV継手・DV-VU継手の接合方法

1 管の切断
切断箇所は正しく寸法を出し、マジックインキ等で管軸に直角に切断線を記入し塩ビ用ノコギリを用いて切断します。

注意 管が変形したのやすり傷のついたものは切り除いてください。

2 管差口の面取り
管差口は、やすりなどを用いて内外面全周にわたり糸面取りをおこないます。特に管を切断した場合は、バリやカエリのないよう管端面もきれいに仕上げることを心がけてください。
面が取れていないと、接続時受口部の接着剤を削りとり、抜けの原因となるので、必ず糸面取りをしてください。

3 挿入長さの記入
受口長さ(ℓ)と同じ長さの挿入標線を記入してください。

呼び径	30	40	50	65	75	100	125	150
ℓ	18	22	25	35	40	50	65	80

単位:mm	200	250	300
ℓ	105	125	140

4 受口・差口の清浄処理
継手受口内部や管差口に付着した砂、土、水分等は乾いたウエスできれいに拭き取ってください。
※特に接合部に油等が付着している場合は、工業用アルコールを少量用いて清浄してください。

5 ワイヤロープと挿入機の取付け
呼び径50以下は、作業条件がよければ手で挿入可能です。
呼び径65以上は必ずエスロン挿入機を使用してください。

6 接着剤の塗布
管種に合った専用の接着剤を使用して、継手の内面、管の外面の順に接着剤を均一に塗布してください。

注意 継手内面は、薄く全面に塗布してください。

7 管の挿入
継手受口と管差口の軸を合わせ、挿入機を用いて標線の位置まで挿入します。

注意 接着剤塗布後、できるだけ素速挿入し、はみ出した接着剤は拭き取ってください。
注意 挿入は途中で停止することなくすみやかに一気に挿入してください。(ねじらず挿入してください)
注意 たたき込みや斜め挿入は漏水などの原因となりますので絶対に行わないでください。

8 保持・養生
荷重をかけたまま保持します。
30秒以上保持し、抜けない事を確認してください。

注意 はみだした接着剤はウエスなどで拭き取ってください。

9 溶剤蒸気の除去
注意 配管完了後は、内面の接着剤の溶剤蒸気除去のため、必ず通風してください。

透明DV継手・DV-VU継手の接合方法 (DV継手：呼び径40~100、DV-VU継手：呼び径30~125)

管の切断と管差口の面取りは、上記と同様の方法で行ってください。

<p>1 挿入標線の記入</p> <p>●受口長さと同じ長さの挿入標線を記入してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>呼び径</td> <td>30</td> <td>40</td> <td>50</td> <td>65</td> <td>75</td> <td>100</td> <td>125</td> </tr> <tr> <td>受口長さ(ℓ)</td> <td>18</td> <td>22</td> <td>25</td> <td>35</td> <td>40</td> <td>50</td> <td>65</td> </tr> </table>	呼び径	30	40	50	65	75	100	125	受口長さ(ℓ)	18	22	25	35	40	50	65	<p>2 清浄処理</p> <p>●乾いたウエスで水、土、ほこりをふき取ります。 ※特に接合部に油等が付着している場合は、工業用アルコールを少量用いて清浄してください。</p>	<p>3 挿入固定治具の取付け</p> <p>●呼び径65以上については必ずエスロン挿入機を使用してください。</p>
呼び径	30	40	50	65	75	100	125											
受口長さ(ℓ)	18	22	25	35	40	50	65											
<p>4 接着剤の塗布</p> <p>●適量のエスロン接着剤ブルーを薄く均一に、継手の内面、管の外側の順に塗布します。</p> <p>必ずエスロン接着剤ブルーをご使用ください</p>	<p>5 管の挿入</p> <p>●標線まで確実にまっすぐに挿入します。</p> <p>注意 1.挿入は途中で停止することなくすみやかに一気に挿入してください。(ねじらず挿入してください) 2.たたき込みや斜め挿入は漏水などの原因となりますので絶対に行わないでください。</p>	<p>6 保持・養生</p> <p>●荷重をかけたまま保持します。</p> <p>注意 はみだした接着剤はウエスなどで拭き取ってください。</p>																

注意 屋上などで光線が通過して藻の発生が考えられる場合には、遮光テープを巻いてください。

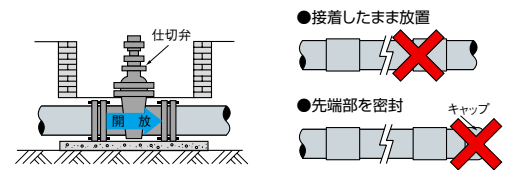
通水試験時の注意

- 注意** 通水試験の加圧は、最終の接着接合が終わってから少なくとも24時間以上経過してから実施してください。
配管後漏水試験を行う場合は、必ず水圧にて、エア抜きを確実に行った後、加圧してください。
通水の際は制水弁を徐々に開き、急激な圧力をかけないでください。
- 警告** 空気圧で行った場合、管および継手が飛散して怪我する恐れがあります。



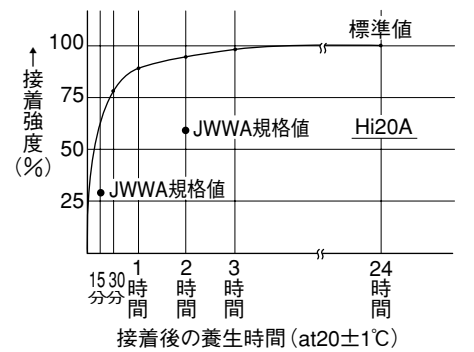
●接着剤蒸気の排除

- 警告** 配管時、仕切弁を閉じたり、先端部をキャップで密封すると、管内の接着剤蒸気によって管が侵され、通水時に破損することがあります。配管後は仕切弁、先端部等は開放にして接着剤蒸気が逃げやすいようにしてください。
夜間5℃以下になる季節や地方では、配管後、送風機で蒸気を排除してください。無圧で通水できれば効果があります。



●エスロン接着剤の養生時間と接着強度の関係

- 注意** グラフの数値は、接着剤の性能を示すもので、養生途中での接着強度を保証するものではありません。
管と継手の接続部の強度は、サイズや接着剤の塗布量、接着温度、保持時間および挿入量などによって変化します。
例として、HIパイプ、継手をエスロン接着剤No.80を使用して接合した場合を示します。



●接着剤の臭いについて

- 注意** エスロン接着剤には有機溶剤が含まれています。
施工において接着剤の塗布量が多いとき、また、施工後、乾燥が十分でない内に水を流すと、水が臭う場合があります。
初期のたまり水は捨ててください。

SC(ソルベントクラック)対策について

- 注意** SC (Solvent Cracking) とは、接着剤に含まれている溶剤が塩ビ管に作用して、クラック(小亀裂)を起こすことをいいます(防腐剤等でも同じことが起こります)。特に低温時(冬季)に起こりやすい傾向がありますが、配管時には次のようなSC対策をとってください。

項目	対策
接着剤の適量使用	管種に合った専用接着剤を用い薄く均一に塗布する。
接着剤の拭き取り	接着後、はみ出した接着剤はウエスで必ずふき取る。塗布時、溝床にこぼれた接着剤を取り除く。
通風	配管後、ブロー送風で管内溶剤蒸気を除去する。(少なくとも4~5時間以上) また、ブローは低圧大容量のものを選ぶ。
サンドクッション実施	管に直接石があたると局部応力が発生するので、必ずサンドクッションを施す。
陸継ぎ工法の採用	管を2~4本ごとに陸継ぎしておき、自然通風により溶剤蒸気を除去したのち、溝内接続する。
埋戻しを早くする	露出した状態で放置すると温度差が大きくなり、引張り応力が増すので早く所定の埋戻しをおこなう。
管の両端開放	弁、空気弁を開放して通風を良くし、溶剤蒸気を除去する。
水洗	配管後無圧の状態、呼び径50以下は30分後から、75以上は1時間以上経過後から水洗しておく。

接着剤の塗布量

●径別1ヶ所当たりの接着剤塗布量

呼び径	13	16	20	25	30	40	50	65	75	100	125	150	200	250	300
塗布量(g)	0.7	1.0	1.5	2.0	2.5	3.5	5.0	6.5	10.0	15.0	20.0	30.0	55.0	90.0	125.0

(参考) 1箇所当たり

- 注意** ・異種の接着剤同士、または古い接着剤と新しい接着剤を混合しないでください。接着効果が低下し、抜けの原因となります。
・水・土などの混入したもの、接着剤特有の刺激臭のないもの、ゼリー状になったものは使用しないでください。
・材料発注は現物に於けるロス及び季節による増減を考慮して3割程度余分に見込んでください。

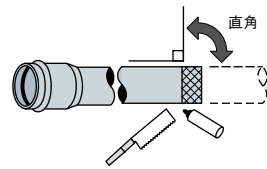
ラバーリング接合

〈配管工具及び材料〉

- ベルサポート
- 塩ビ用ノコギリ
- エスロン面取機
- 玉掛けワイヤーロープ
- 挿入機（ヒッパラー、シメラーなど）能力1/2ton
- メジャーおよびマジックインキ
- 滑剤および刷毛
- ウエス
- すき間ゲージ

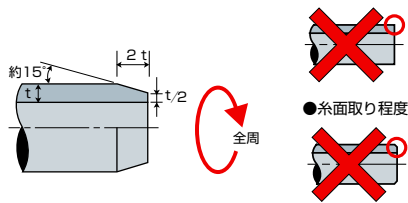
1 管の切断

切断箇所にマジックインキで管軸に直角に標線を記入し、塩ビ用ノコギリで直角に切断して下さい。



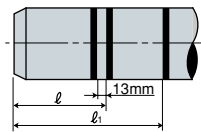
2 差口の面取り

切断した管端は、鉄工用荒目平ヤスリまたは、エスロン面取機を用いて15°面取りします。（定尺管は面取り済み）



3 挿入長さの記入

接続時の管挿入長さの目安とするため、差口側に挿入長さを記入します。（定尺管は記入済み）

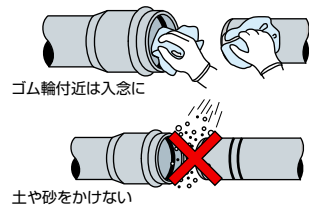


呼び径	40	50	75	100	125	150	200	250	300
ベルバイブ-L HIベルバイブ・ゴールド+(プラス)	ℓ	100	107	120	132	138	152	175	194
HIベルバイブ・プロング・ ゴールド+(プラス)	ℓ	-	156	166	179	-	201	222	-
	ℓ ₁	-	231	241	254	-	276	297	-

※他の管につきましては、各管材の施工ハンドブック等をご参照ください。

4 管の清浄処理

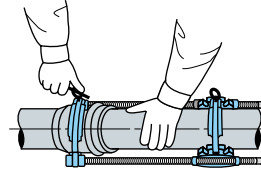
受口内面と差口管外面に付着している土や砂はウエスで拭きとります。ゴム輪を外した場合は、ゴム輪の正しい装着方法(P27)を参考にしてください。



5 挿入機の取り付け

●ベルサポートによる挿入
(ベルバイブロング・ゴールド+(プラス)および、呼び径150以下の場合)

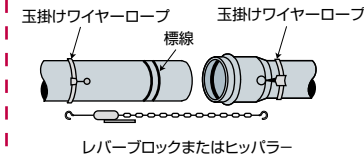
クランプ間隔を最大に開き、固定側クランプに受口を、可動側クランプに差口をセットし、締付けレバーで固定します。可動側クランプは、挿入時に滑らないようにしっかり締め込んでください。



5 挿入機の取り付け

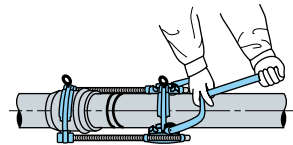
●玉掛けワイヤーロープによる挿入
(呼び径200~300の場合)

受口と差口の両側に玉掛けワイヤーロープを1本づつ掛け、挿入機を取付けます。ハンマーでのたたき込みや、建設機械での挿入は行わないでください。



6 トルクレバーの取り付け

トルクレバーを挿入用トルクレバー受にセットします。この際、ラックとピニオンの噛み合いを確認し、異物の噛み込みのないようにしてください。

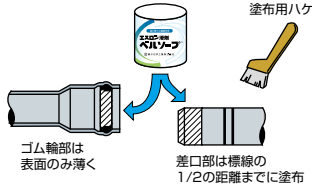


7 滑剤の塗布

エスロン滑剤ベルソープを差口の面取り部から挿入長さの1/2程度の範囲にハケで塗布します。受口のゴム輪には、少量塗布してください。

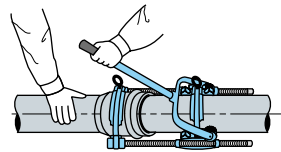
■標準使用量 (参考)

呼び径	40	50	75	100	125	150	200	250	300
使用量(g)	4	5	7	10	15	20	25	35	50



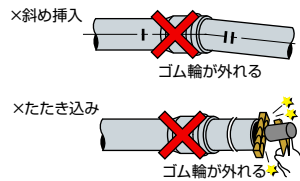
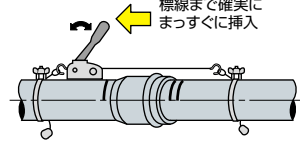
8 管の挿入

トルクレバーの歯車を噛み合わせた状態で、ハンドルを受口側に動かすと管が挿入できます。2本の標線の間まで差し込んでください。トルクレバーはラチェット式になっておりますので、滑らすようにハンドルを管側に戻し、再度受口側に動かす動作を繰り返せば簡単に挿入できます。



8 管の挿入

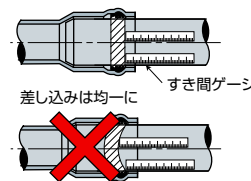
挿入線を上にして受口と差口の管軸を合わせて挿入します。挿入荷重が異常に大きいときは、挿入機を外してゴム輪を再点検してください。2本の標線の間まで差し込んでください。



呼び径別挿入力	40	50	65	75	100	125	150
挿入力	20	25	35	40	55	60	70

〈接続部の点検〉

挿入完了後、受口にすき間ゲージ、または金属製薄板を差し込んでゴム輪が全周にわたって均一な深さにあるかどうかを点検します。



製品安全データシート(MSDS)

エスロン75, 積水化学工業(株), Ae007, 2006年11月30日
作成2001年 4月19日
改訂2006年11月30日

1. 製品名及び会社情報

製品名 エスロン75
会社名 積水化学工業株式会社
住所 東京都港区虎ノ門2-3-17 (虎ノ門2丁目タワー)(〒105-8450)
担当部門 環境・ライフラインカンパニー 給排水システム事業部
電話番号 03-5521-0552
緊急連絡電話番号 03-5521-0552
FAX番号 03-5521-0558
緊急連絡先 上記担当部門
推奨用途及び使用上の制限 硬質塩化ビニル管接合用接着剤
所定の用途以外には使用しないこと
整理番号 Ae007

2. 危険有害性の要約

GHS分類	物理化学的危険性	健康に対する有害性	環境に対する有害性	
物理化学的危険性	火薬類 可燃性・引火性ガス 可燃性・引火性エアゾール 支燃性・酸化性ガス 高圧ガス 引火性液体 可燃性固体 自己反応性化学品 自然発火性液体 自然発火性固体 自己発熱性化学品 水反応可燃性化学品 酸化性液体 酸化性固体 有機過酸化物 金属腐食性物質	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入:ガス) 急性毒性(吸入:蒸気) 急性毒性(吸入:粉じん, ミスト) 皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	急性毒性(経口) 急性毒性(経皮) 急性毒性(吸入:ガス) 急性毒性(吸入:蒸気) 急性毒性(吸入:粉じん, ミスト) 皮膚腐食性・刺激性 眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露) 特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	引火性の高い液体および蒸気 水生環境急性有害性 水生環境慢性有害性

3. 組成、成分情報

成分	含有量(%)	CAS番号	官報公示整理番号(化審法・安衛法)
シクロヘキサノン	30~40	108-94-1	(3)-2376
メチルエチルケトン	25~35	78-93-3	(2)-542
アセトン	15~25	67-64-1	(2)-542
塩ビ酢ビ共重合樹脂	10~20	9003-22-9	(6)-76

4. 緊急措置

吸入した場合	皮膚に付着した場合	目に入った場合	飲み込んだ場合	予想される急性症状及び遅発性症状	応急措置をする者の保護	医師に対する特別注意事項
被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。必要に応じて医師の診断、手当てを受けること。皮膚を速やかに洗浄すること。	汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯すること。皮膚刺激が生じた場合、気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。水で数分間、注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用している場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。医師の診断、手当てを受けること。直ちに医師の診断、手当てを受けること。無理に吐かせないこと	吸入による呼吸器官への刺激、咳、息切れ。飲み込みによる胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢。接触による皮膚の刺激と眼の刺激、発赤、痛み。過度のばく露で麻酔作用、頭痛、めまい、視野狭窄、吐き気、下痢および意識喪失。	救助者は、状況に応じて適切な保護具(有機溶剤用の防毒マスク等)を着用する。	情報なし	炭酸ガス消火剤、粉末消火剤、泡消火剤 棒状注水 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。加熱により容器が爆発するおそれがある。引火性の高い液体及び蒸気。	火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。延焼の恐れのないように、周囲の設備などに散水して周辺を冷却する。消火活動は可能な限り風上から行い、状況によっては呼吸保護具を着用する。

危険・有害性の評価は必ずしも充分でないので取り扱いには充分注意してください。

5. 火災時の措置

単一製品・混合物の区分	混合物
化学名又は一般名	塩化ビニル・酢酸ビニル共重合樹脂系接着剤
消火剤	炭酸ガス消火剤、粉末消火剤、泡消火剤
使ってはならない消火剤	棒状注水
特有の危険有害性	火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガスを発生するおそれがある。極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。加熱により容器が爆発するおそれがある。引火性の高い液体及び蒸気。
特有の消火方法	火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。大規模火災には、泡消火剤を用いて空気を遮断する。延焼の恐れのないように、周囲の設備などに散水して周辺を冷却する。消火活動は可能な限り風上から行い、状況によっては呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具(8.ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどで関係者以外の立ち入りを禁止する。風上から作業し、風下の人を退避させる。屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起さないように注意する。少量の場合、吸着剤(おがくず、土、砂、ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。
二次災害の防止策	大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。付近の着火源となるものを速やかに除くとともに消火剤を準備する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い	吸入・接触のおそれがあるときは適切な保護具を使用する。火気厳禁。
技術的対策	火気厳禁。
局所排気・全体換気	取り扱う場合は、局所排気用、または全体換気設備のある場所で取り扱う。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。
安全取扱い注意事項	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。取扱い後はよく手を洗うこと。眼、皮膚、衣類に付けないこと。蒸気、ミスト、スプレーを吸入してはならない。すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
保管	熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。一禁煙。冷所、換気の良い場所で貯蔵すること。施設貯蔵すること。

※エスロン75以外の製品安全データシートについては最寄りの営業所までお問い合わせください。

製品安全データシート(MSDS)

8.ばく露防止及び保護措置

設備対策	蒸気を吸入しないように、局所排気装置の設置、設備の密閉化または全体換気を適正に行うことが望ましい。
------	---

	管理濃度	許容濃度 <small>（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）</small>	
		日本産衛学会（2005年版）	ACGIH（2005年版）TLV-TWA
シクロヘキサノン	25ppm	25ppm	25ppm
メチルエチルケトン	200ppm	200ppm	200ppm
アセトン	500ppm	200ppm	500ppm

保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク
手の保護具	不浸透性保護手袋
眼の保護具	有機溶剤対応型ゴーグル
皮膚及び身体の保護具	長袖作業着
衛生対策	取扱いはよく手を洗うこと。

9.物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色など	無色透明液体
臭い	特有の刺激臭
pH	該当せず
沸点、初留点及び沸騰範囲	56.5℃(沸点)
引火点	−17℃(密閉式)
比重（密度）	0.91～0.95
自然発火温度	420℃
粘度	約115mPa・s

10.安定性及び反応性

安定性	通常の取扱では安定である。
危険有害反応可能性	強酸化剤と激しく反応して発火する。
避けるべき条件	加熱。
混触危険物質	酸化剤。
危険有害な分解生成物	燃焼により一酸化炭素、二酸化炭素を生じる。

11.有害性情報

急性毒性						
	含有量（％）	急性毒性（経口）	急性毒性（経皮）	急性毒性（吸入:ガス）	急性毒性（吸入:蒸気）	急性毒性（吸入:粉塵・ミスト）
シクロヘキサノン	30～40	区分4（1544mg/kg）	区分3（947mg/kg）	分類対象外	区分3（2450ppm）	区分外（8000ppm）
メチルエチルケトン	25～35	区分5（2483mg/kg）	区分外（>5000mg/kg）	分類対象外	区分5（11700ppm）	分類できない
アセトン	15～25	区分外（>5000mg/kg）	区分外（>5000mg/kg）	分類対象外	区分外（32000ppm）	分類できない
塩ビ酢ビ重合樹脂	10～20	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない	分類できない

急性毒性（経口）	別表区分の急性毒性（経口）の物質を含む。これにより、混合物の推定値ATEmix=2145mg/kgが算出される。混合物として区分5（飲み込むと有害のおそれ）に分類される。
急性毒性（経皮）	別表区分の急性毒性（経皮）の物質を含む。これにより、混合物の推定値ATEmix=1729mg/kgが算出される。混合物として区分4（皮膚に接触すると有害）に分類される。
急性毒性（吸入:蒸気）	別表区分の急性毒性（吸入・蒸気）の物質を含む。これにより、混合物の推定値ATEmix=4628ppmが算出される。混合物として区分4（吸入すると有害）に分類される。
皮膚腐食性・刺激性	以下の区分の皮膚刺激性の物質を含む。区分2:シクロヘキサノン（30～40%）、メチルエチルケトン（25～35%）混合物として区分2（皮膚刺激）に分類される。
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	以下の区分の眼に対する重篤な損傷・眼刺激性の物質を含む。区分2A:シクロヘキサノン（30～40%）区分2B:メチルエチルケトン（25～35%）、アセトン（15～25%）混合物として区分2A（強い眼刺激）に分類される。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作:データなし。皮膚感作性:データなし。
生殖細胞変異原性	以下の区分の生殖細胞変異原性の物質を含む。区分2:シクロヘキサノン（30～40%）混合物として区分2（遺伝性疾患のおそれの疑い）に分類される。
発がん性	以下の区分の発がん性の物質を含む。区分2:シクロヘキサノン（30～40%）混合物として区分2（発がんのおそれの疑い）に分類される。
生殖毒性	以下の区分の生殖毒性の物質を含む。区分2:シクロヘキサノン（30～40%）、アセトン（15～25%）混合物として区分2（生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い）に分類される。

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）

以下の区分の特定標的臓器毒性（単回ばく露）の物質を含む。シクロヘキサノン（30～40%）>1% 区分1（肝臓、脾臓、中枢神経系）区分2（肺）区分3（麻酔作用、気道刺激性）メチルエチルケトン（25～35%）>1% 区分1（中枢神経系）区分2（腎臓）区分3（気道刺激性）アセトン（15～25%）>1% 区分3（麻酔作用、気道刺激性）混合物として区分1（肝臓、脾臓、中枢神経系の障害）区分2（肺、腎臓の障害のおそれ）区分3（眠気又はめまいのおそれ）に分類される。

以下の区分の特定標的臓器毒性（反復ばく露）の物質を含む。シクロヘキサノン（30～40%）>1% 区分1（腎臓、肝臓、中枢神経系）メチルエチルケトン（25～35%）>1% 区分1（中枢神経系、末梢神経系）混合物として区分1（長期又は反復ばく露による腎臓、肝臓、中枢神経系、末梢神経系の障害）に分類される。

以下の区分の吸引性呼吸器有害性の物質の合計10%以上を含むが40℃動粘性率が14mm2/s以上である。区分2:シクロヘキサノン（30～40%）、メチルエチルケトン（25～35%）、アセトン（15～25%）混合物として区分外に分類される。

12.環境影響情報

水生環境急性有害性	区分外
水生環境慢性有害性	区分外

13.廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。容器は清浄してリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
汚染容器及び包装	

14.輸送上の注意

国内規制	
陸上規制情報	消防法の規定に従う。
海上規制情報	船舶安全法の規定に従う。
航空規制情報	航空法の規定に従う。
国連番号	1133（接着剤:引火性液体を含有するもの）
国連分類	クラス3（引火性液体）
特別の安全対策	消防法の規定に従う。危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒しもしくは破損しないように積載すること。危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。移送時にイエローカードの保持が必要。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

15.適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物（法第57条の2）（シクロヘキサノン、メチルエチルケトン、アセトン）名称等を表示すべき有害物（施行令第18条）（シクロヘキサノン、メチルエチルケトン、アセトン）第2種有機溶剤等（有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号）（シクロヘキサノン、メチルエチルケトン、アセトン）第4類 第1石油類 非水溶性液体 （危険等級Ⅱ）
消防法	該当せず
化学物質管理促進法（PRTR法）	該当せず
毒物及び劇物取締法	該当せず

16.その他の情報

引用文献	1) 化学物質等安全データシート(MSDS)－第1部:内容及び項目の順序 <p>2) 製品安全データシートの作成指針(改訂版)、社団法人日本化学工業協会</p> 3) GHS分類結果データベース、独立行政法人製品評価技術基盤機構 ホームページ
	4) 化学物質の危険・有害性便覧 中央労働災害防止協会

記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成いたしておりますが、記載のデータや評価に関しては、情報の完全さ、正確さを保証するものではありません。また、記載事項は通常の取り扱いを対象としたものですので、特別な取り扱いをする等の場合には新たに用途、用法に適した安全対策を実施の上、お取り扱い願います。

日本水道協会の接着剤適合基準について

水道用硬質ポリ塩化ビニル管の接着剤〔JWWA S 101-2006〕の規格概要

1 適用範囲

この規格は、水道用硬質ポリ塩化ビニル管（以下管という）および水道用硬質塩化ビニル管継手（以下継手という）の接合に使用する塩化ビニル樹脂溶液形接着剤及びアクリル樹脂溶液形接着剤（以下接着剤という）について規定する。

注1.管　：JIS K 6742（水道用硬質ポリ塩化ビニル管 VP、H1VP）

2.継手：JIS K 6743（水道用硬質ポリ塩化ビニル管継手 TS、H1TS）

2 種類

接着剤は速乾性とし、粘度によって表2の2種類に区分し、次の記号を用いる。

種 類	記 号
低粘度	A
高粘度	B

注：VP用とH1VP用とがある。

3 材料および製造方法

3.1 接着剤は塩化ビニル重合体または、アクリル重合体を主原料とし、メチルエチルケトンなどの溶剤で溶解したものとす。

3.2 組成

接着剤の組成は次のものから選択する。

a) 樹脂：塩化ビニル樹脂、アクリル樹脂

b) 溶剤：アセトン、テトラヒドロフラン、酢酸エチル、メチルエチルケトン、シクロヘキサノン

c) 顔料：着色剤、酸化チタン、アンスラキノン系誘導体

4 品質

接着力、乾燥減量および粘度は、所定の試験を行い、表3に適合しなければならない。

項 目		品質規定
接着力（MPa）	接合後15分を経過したもの	1.25以上
	接合後2時間を経過したもの	2.50以上
乾燥減量（％）		30～50
粘 度（mPa・s）	低粘度	100～800
	高粘度	500～3000
浸出性	有機物[全有機炭素（TOC）の量](mg/L)	0.5以下
	味	異常でないこと
	臭気	異常でないこと
	色度(度)	0.5以下
	濁度(度)	0.2以下
残留塩素の減量(mg/L)		0.7以下

⚠ 警 告 危険・有害性の評価は必ずしも充分でないので取り扱いには充分注意してください。

※エスロン75以外の製品安全データシートについては最寄りの営業所までお問い合わせください。